



# 残留孤児

比国ミンダナオ島

>4<

ミンダナオ島タバオ市の西に、フィリピンで最高峰アポ山(標高一、九五四)に、タカモリ兄弟の父は猟師、一人の子だ。タカモリ兄弟はバゴボ族に同

## 少数民族に同化 父思う

### アポ山の麓で

家で、いずれも日本人。米軍上陸で避難の途中、母子と離れ離れになり、収容所から日本に引き揚げた。小田さんの父は、船が到着した鹿児島から一度、手紙を寄した後、音信はなくなり、七年前、知人から死亡連絡が入った。父の出身地は小田さんが「広島」、タカモリ兄弟は「広島・たかえる」とだけ覚えていた。残された二組の母子は逃げ回った末、トヤヤ地区に住みついた。三人はバゴボ族の娘と結婚し、小田さんは十四人、アキラさんは八人、ヨシタカさんは六十一人の子が生まれ、五人は独

立して一家八人が暮らしている。社関係者から「父みつかる」の連絡があった。父と兄の写真も受け取った。喜んだ母親は、対岸に住む、日本語のわかる混血七人の兄妹がいて、父は兄三人と、子供たちの古い写真や今の家族の写真などを持って川を渡して、引き揚げた。みよこが、家族の写真などを持って川を渡す途中、深みにはまって水死。父と兄を乗せた船は一日遅いで出航した後だった。その後、連絡は途絶えた。みよこさんは貴重な二ワトリの故郷をみてみたい。考えると胸が熱くなる。帰りの際、みよこさんは「たかさん、おれがどなたとたどしい日本語であいつた。」



アポ山のふもとに住むタカモリ・アキラさん(左)、弟のヨシタカさん(中)、小田ケイジさん(右)は1日ばかりでやってきた。ミンダナオ島タバオ市で



内村みよこさん(右端)の家族と弟のタオセさん(左端)。バダヤ河畔のニッパハウスに住む。ミンダナオ島南タバオ州トレガン地区で